



# ふるさと笠松の「モラルセンス No.2」

## 「子どもは、道徳性をだれから学ぶのか？」

「子どもが変わってしまった。」と、よく言われています。とりわけ現代社会においては、「エゴイズムな子どもたち」という言葉に代表されるように、「苦労はしたくない。」「嫌なことからは逃げたい。」「好きなことだけやりたい。」「我慢は死語」という子どもたちが増えているようです。今後、こういう傾向は一層深刻化していくと思われまます。

いつ頃から日本はこうなってしまったのでしょうか。日本の時代の変遷をキーワードでみていくと、1960年代は「高度成長時代」、1980年代は「新人類時代」、1990年代からは「自己決定時代」というようになります。

とりわけ自己決定時代を迎えてから、「自分の決めたことが法律だ。」「他人に迷惑をかけない限り、何をしても自由だ。」という子どもたちが増えました。自己決定、自己責任の論理が世間に残した傷跡はとて大きいといえるでしょう。

ところで、子どもたちは道徳性をだれから学ぶのでしょうか？右の表は日本と米国の調査結果を対比したものです。単純に平均値で比較してみますと、母親から学んだ値は日本が30%に対して米国は67%です。先生から学んだ値は日本が9%に対して25%です。この数値を見る限り、日本は家庭教育と学校教育をもう一度、見直す必要がありそうです。

子どもの道徳心を育てることはとても大切なことだとは理解しています。しかし、心のどこかで道徳心よりも学力の方をより重要視している現実があるとすると、家庭も学校も社会も、もう一度どういう子どもを育てたいのか、どんな子どもたちに未来の日本を託したいのかを見つめ直したいですね。

調査 子どもたちは道徳性を だれから学んだか？	母 親		先 生	
	日本	米国	日本	米国
1 自分自身で考えて行動する。	17.5	56.5	6.4	27.9
2 いやなことでも耐える。	27.6	55.9	4.5	17.6
3 自分の責任を果たす。	32.3	75.7	15.0	30.9
4 信頼される人間になる。	29.9	65.3	9.1	24.4
5 自分勝手なことをしない。	36.1	71.9	11.8	15.6
6 物事に誠実にあたる。	25.3	67.6	11.0	13.9
7 一生懸命に働く。	43.0	69.0	7.1	41.0
8 損しても正しいことをする。	24.3	68.0	6.8	26.6
9 正直な人間になる。	38.6	80.3	10.8	33.0

※徳性に関する調査 日本青少年研究所 1992年より抜粋

## 石畳散策・・・「ふるさと笠松の歴史と自慢」を求めて・・・

### 笠松渡船場跡は美しい



5年ぶりに笠松みなと公園を散策してみて、これが以前と同じ公園かしらと疑いたくなるほど、とてもきれいに整備されていました。子どもたちもボールを追いかけたり、小川へ入って涼を足で感じたりしていて、すばらしい雰囲気の公園です。そこから少し南に歩くと石畳がありました。

石畳は岐阜県の重要文化財です。いわれを記した看板が平成22年に立てられました。その文章を読むと船積みする荷物や船からおろされた荷物を運ぶために大八車が使われていましたが、車輪が地面に食い込まないように石畳が造られたとあります。洪水や大水でよく流されなかったものです。また、かなりの坂道ですから、大八車を引く人も大変だったことでしょう。石畳は丸石から明治時代に山石に変わりました。



常夜灯も美しい。

#### 知って得・徳 コーナー

問題「大八車」の「八」というのは何を意味するのでしょうか？  
大八車は代八車とも書きます。つまり、八人分の仕事の代わりをするという意味です。江戸時代から2・3人で引いていました。

#### 「モラルセンス」に関するお問い合わせ

〒501-6083 羽島郡笠松町常盤町6  
笠松中央公民館 電話 058-388-3926

## 「植物は足音で育つ。」

笠松町内の小学校での出来事です。その学校では1年生から6年生まで、命の大切さを学ぶために植物を育てていました。例えば1年生はアサガオ、2年生はホウセンカというようにそれぞれの学年に見合った植物を育てていました。やり方は一人一鉢活動として、子ども一人一人が自分の一鉢を責任を持って育てていました。

梅雨の季節の出来事です。雨がシトシトと降っている朝、傘をさした1年生の子が数人、如雨露（じょうろ）で水をかけていました。その様子を見つけた私は、「雨の日はね、水をやらなくてもいいんだよ。晴れた日だけやろうね。」

と、子どもたちに話しかけました。そうしたら、子どもたちから

「お花は足音で育つんだよ。だから、足音を聞かせるために、今日も水やりに来たんだよ。」

と、大きな声で答えました。

「あ、そうなんだ！みんな、えらいね。」

私はそう答えるのが精一杯でした。きっと担任の先生から

「お花は足音で育つんだよ。毎日足音を聞かせてあげてね。」

という指導があったのでしょうか。子どもたちの純真さと、担任の先生の指導の工夫に驚かされた出来事でした。植物と水との関係はまた、別の機会に教えればよいと思い、子どもたちの雨の日の水やりの様子を楽しんで見っていました。



## ☆ 子育て一口メモ ☆

人の倫(みち)たる教訓は「武士道」から学んだ。

新渡戸 稲造 著「武士道」の序文より

### 新渡戸稲造



新渡戸 稲造氏は5千円札に印刷されている人物です。

1899年12月に英語で書かれた「武士道」はアメリカやヨーロッパでベストセラーになりました。現代の日本人が読んでも大変ためになります。とりわけ、日本人は何を大切に生きてきたのかがよくわかります。その「武士道」の序文に次のような記述があります。

ベルギーの法学者から「あなたがたの学校では宗教教育というものがない、とおっしゃるのですか？」と尋ねられました。私が、「ありません。」という返事をする、氏は驚きのあまり「宗教がないとは。いったいあなたがたはどのようにして子孫に道德教育を授けるのですか。」と繰り返された。その時、私はその質問に愕然とした。・・私に善悪の観念を吹き込んだものは「武士道」であったことに思い当たった。

一部 省略

新渡戸氏は「武士道」の中で、義・勇・仁・礼・誠・名誉などが大切にされていることを説きました。

また、武士階級はなくなったが、新しい時代を迎えても、武士道は不死鳥のように甦り、不滅の教訓としてその力はこの地上から消え去ることはないと言っています。

もう一度、「武士は何を学び、どのように己を磨いたか」を学ぶことは、道德の大切さが叫ばれている今、意味のあることだと思われます。

- ・ 自己の名誉心、これが日本の発展の原動力
- ・ 日本人以上に忠誠で愛国的な国民は存在しない
- ・ 人とともに喜び、人とともに泣けるか
- ・ 名誉、勇気そして武徳のすぐれた遺産を守れ
- ・ 武士道は日本の精神活動 推進力
- ・ 「名誉」はこの世で最高の「善」である
- 「かくすれば かくなるものと知りながら やむにやまれぬ大和魂」・・・吉田 松陰 辞世の句